

製品名: Arg2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86797**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000, ICC/IF 1:200-1:500, FC 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:39 kDa; Observed MW:39 kDa

抗原情報

遺伝子名	Arg2
別名	Arginase II; Kidney-type arginase; Non-hepatic arginase; Type II arginase
遺伝子 ID	384
SwissProt ID	P78540
免疫原	ヒト Arg2 の合成ペプチド

背景

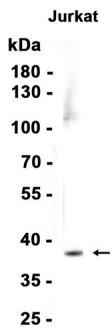
アルギナーゼは、アルギニンをオルニチンと尿素に加水分解する触媒作用を担う。哺乳類アルギナーゼには少なくとも2つのアイソ

フォーム (I型とII型) が存在し、組織分布、細胞内局在、免疫学的交差反応性、および生理学的機能がそれぞれ異なる。この遺伝子によってコードされるII型アイソフォームはミトコンドリアに局在し、肝外組織、特に腎臓で発現する。このアイソフォームの生理学的役割は十分に解明されていないが、一酸化窒素およびポリアミン代謝に関与していると考えられている。II型遺伝子の転写産物バリエーションは、ポリアデニル化部位の置換によって変異することが報告されている。[RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

-

画像データ



Arg2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した Jurkat 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。